

高等  
科用

普通讀本

高橋熊太郎編

一編上

T1A3

10

Ta33

明治二十九年九月二十六日  
 文部省檢定濟



高等  
 科用  
 普通讀本

凡例

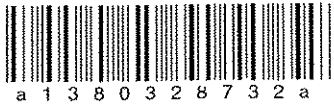
一 本書ハ小學校高等科ノ讀本ニ供スル目的ヲ以テ編纂シタルモノトス。故ニ其冊數ハ一年ニ冊トナシ、八冊ヲ以テ全部トナス。

一 書中掲グル所ハ、文學、理科、道德、地理、史傳及ビ實業ニ涉レル有趣有益ノ事項ヲ擇ビ、之ヲ編入スルニハ、課ヲ逐ヒ卷ヲ改ムルニ隨ヒ、漸次ニ其程度ヲ高クスルコトニ注意セリ。

明治二十年四月

編者識

圖書 和圖書 遡



福岡教育大学蔵書

高等  
 普通讀本

凡例

編者識



甲

科用 普通讀本 一編 上目次

科高等 普通讀本 一編 上目次

第十課	第九課	第八課	第七課	第六課	第五課	第四課	第三課	第二課	第一課
大坂	旁ノ事	名工ノ用意	植物ノ話 其一	物體ノ三狀	扁ノ事	楠正行	音及ビ訓	食物ノ事	學者ノ箴言
十六丁	十五丁	十三丁	十一丁	八丁	六丁	三丁	三丁	二丁	一丁

科高等 普通讀本 一編 上目次

第十一課	休息及び睡眠ノ事	十七丁
第十二課	貨幣ノ通用	十九丁
第十三課	冠及び沓	二十一丁
第十四課	身體ノ機關 其一	二十二丁
第十五課	愚王ノ慚徳	二十四丁
第十六課	駝鳥	二十五丁
第十七課	文字ノ構造	二十八丁
第十八課	水氣ノ凝縮	二十九丁
第十九課	地球ノ經緯度	三十二丁
第二十課	景美ノ行	三十四丁

科用普通讀本一編上目次

科用普通讀本一編上

高橋熊太郎 編

第一課 學者ノ箴言

佛蘭西ノ國ニ學者淵叢ノ地アリ。人其地ヲ過グ  
 レバ、多ク其廬ニ詣リテ教ヲ乞フ。曾テ一農夫ア  
 リ偶、此地ニ來リ、先ヅ教ヲ受ケントテ、其家ニ至  
 リタリ。學者ハ農夫ニ向ヒテ曰ク、子ガ問ハント  
 欲スルハ何事ゾト。農夫曰ク、唯終生守ルベキ箴  
 言ヲ授ケヨト。是ニ於テ學者ハ筆紙ヲ執リ、一句  
 ヲ記シテ之ヲ與ヘケレバ、農夫ハ大ニ悦ビテ去



ル。  
 既ニシテ家ニ歸レバ、夕陽山ニ沈ミ、暮色蒼然タリ。時ニ傭夫等問フ、枯草ハ已ニ燥ケリ、之ヲ藶舎ニ藏ムベキカ。農夫ノ妻曰ク、日晷已ニ晚シ、明朝藏ムルモ妨ナシ。農夫ハ之ヲ聞キ、絶叫シテ曰ク、今日吾名士ノ教ヲ乞ヘリ、先ヅ之ヲ見テ、其可否ヲ決セント。懷中ヨリ一紙ヲ出シ、妻ニ與ヘテ讀マシムレバ、其文ニ曰ク、

今日ノ業ハ、明日ニ延バスコト勿レ。

農夫ノ曰ク、然ラバ直ニ之ヲ藏ムベント。傭夫藏

メ畢レバ、天氣俄ニ變ジ、滿天墨ヲ流セルガ如ク、風雨烈シク來リ、河水大ニ漲リ、一村爲メニ其害ヲ被リシガ、獨リ農夫ハ之ヲ免レタリ。是ヨリ益箴言ヲ信ジ、終生守リテ怠ラズ、遂ニ大ニ富ヲ致シ、ト云フ。

第二課 食物ノ事

吾人ノ常ニ食スベキ物、甚ダ多シ。穀類、魚介、鳥肉、獸肉、及び果實、菜蔬ノ類ナリ。穀類ハ米、麥、豆、粟、黍等ニシテ、魚類ニハ鯛、鯉、鯽、鮭、鰻、鯉、鮒等アリ。介類ニハ鰻、蛤、蛭、牡蠣等アリ。鳥肉トハ雁、鴨、雞、鶩等ノ

肉ヲ云ヒ、獸肉トハ牛、豚、猪、鹿等ノ肉ヲ云フ。果實トハ柿、蜜柑、梨、葡萄、桃、栗ノ類トシ、菜蔬トハ蘿蔔、胡蘿蔔、蕪菁、蓮根等トス。

凡ソ食物ヲ調理スルノ味五アリ、鹹、甘、酸、辛、苦、是ナリ。此中鹹ヲ第一トス。鹹ハ即チ鹽ニシテ、多クハ海中ヨリ取レドモ、又或ハ陸地ニモ産シ、坑ヲ穿チテ之ヲ採ル。因テ此鹽坑ヨリ得ルモノヲ陸鹽ト云フ。

斯ノ如ク土地ニハ、食スベキモノ甚ダ多シト雖モ、吾人ハ食スル爲メニ生活スルニ非ズシテ、生

活スル爲メニ、食スルコトヲ忘ルベカラズ。

第三課 音及ビ訓

總テ文字ニハ、音ト訓トノ二様ノ讀方アリ、音ト云フハ、文字ノ呼聲ニテ、訓ト云フハ、文字ノ意味ナリ。松ト云フ字ハ音ハシヨウニテ、訓ハマツナリ。遊ト云フ字ハ、音ハイウニテ、訓ハアソブナリ。汝等試ニ左ニ示ス文字ノ音ト訓トヲ言ヘ。

船 車 賣 買 輕 覺 聽 臨 淨  
響 顧 贈 凌 懼 寇 據 駐 帥  
又或ハ二字ニテ、一ノ訓ヲ生ズルモノアリ。例ヘ

科用...  
バ太陽、蝙蝠、空氣等ノ如シ。左ニ示スモノハ皆ニ  
字ニテ、一ノ訓ヲ生ズルモノナリ。汝等其音ト訓  
トヲ言ヘ。

産業 教師 紙鳶 塞子 骨牌 軌道  
紳士 精神 暗礁 病氣 颶風 鞦韆  
汝等書ヲ讀ムトキハ、第一ニ音ト訓トニ注意セ  
ヨ。若シ之ニ注意セザルトキハ、之ヲ讀ミ且ツ講  
スルコト能ハズ。

#### 第四課 楠正行

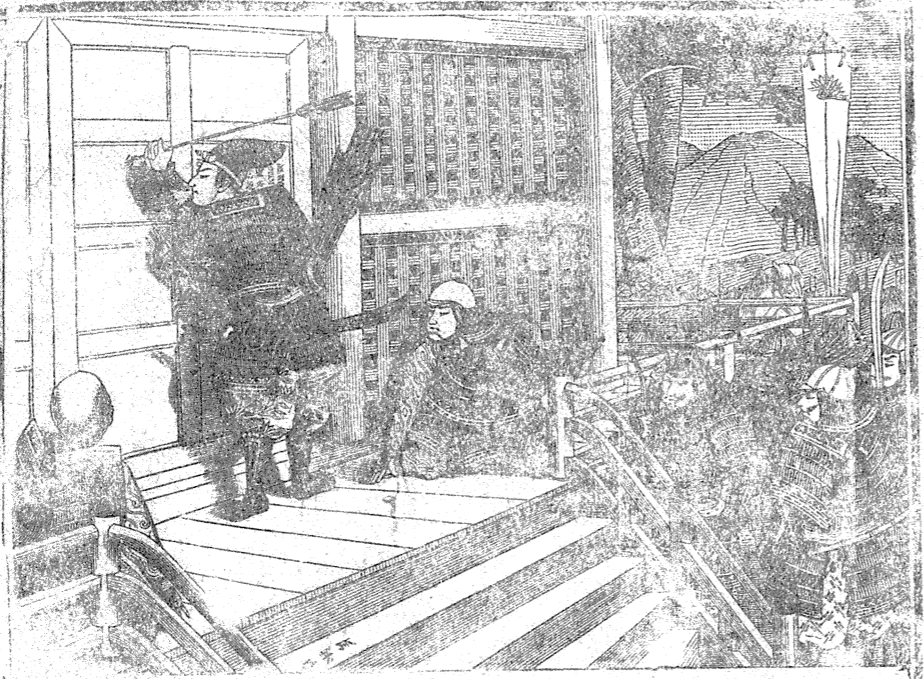
楠正行ハ、正成ノ子ナリ。父死スル時、年甫メテ十

一ナリシガ、父ノ遺詔ヲ奉ジ、追念シテ已マズ、常  
ニ群童ト戯レ遊ブニモ、敵ヲ斬ルノ狀ヲ爲シ、或  
ハ竹馬ヲ走ラシテ、尊氏ヲ追フ者トセリ。後醍醐  
帝ノ吉野ニ遷リ給ヒシヨリ、和田次郎等ト行宮  
ニ赴キ、心ヲ竭シテ守衛ス。帝崩ジ、後村上帝踐祚  
ノ初メ、屢、賊軍ヲ破リテ、尊氏ヲシテ憂懼、枕ヲ安  
ンゼザラシムルニ至ル。

正平二年十二月、高師直及ビ師泰、兵六萬ヲ率井  
テ來リ犯スニ及ビ、正行行宮ニ詣リ奏請シテ曰  
ク、先臣正成、厄弱ノ身ヲ厭ハスシテ、賊ノ強威ヲ



挫キ、以テ宸憂ヲ安ンジ奉リ、後幾モナク逆徒ニ當リ、終ニ命ヲ湊川ニ致セリ。時ニ臣年十一、遣ハシテ河内ニ還シ、懇ニ遺言スルニ一族ヲ糾合シ、朝敵ヲ除滅シ、宇内ヲシテ再ビ皇化ニ歸セシムベキコトヲ以テセリ。今臣年既ニ壯ナリ、而シテ稟性羸弱、常ニ待ツコトアルノ身ヲ以テ、徒ニ不測ノ疾ニ嬰リ、上ニシテハ不忠ノ臣トナリ、下ニシテハ不孝ノ子トナランコトヲ恐ル。方ニ今師直師泰來リ犯サントス、實ニ臣ガ報ヲ效スノ秋ナリ。若シ彼ガ首ヲ獲ルニ非ズンバ、則臣兄弟ノ



首ヲ彼ニ授ケン、雌雄ノ決ハ、此一戦ニアリ。願クハ一タビ龍顔ヲ拜スルコトヲ得テ去ラント、言畢テ泣下ル。帝親ク臨ミ、口ツカラ教シテ宣ハク、前日ニ回ノ戦共ニ克捷ヲ得テ、賊ノ膽ヲ寒カラシメタリ。汝ガ累世ノ武功殊ニ嘉尚スベシ。賊復

清等

五

夕兵ヲ盡シテ來リ犯スト聞ク、真ニ安危ノ決ナリ、然リト雖モ進ムヲ知テ進ムハ、時ヲ失ハザラシガ爲メナリ、退クヲ知テ退クハ、後ヲ全クセシガ爲メナリ、汝ハ朕ノ股肱ナリ、慎ミテ自愛スベシ。正行拜俯シテ誓クハ、首ヲモモタゲ得ズ、是レゾ最後ノ參内ナリト思ヒ定メケレバ、泣々退出シ、一棧從兵ヲ率井テ更ニ後醍醐帝ノ廟ヲ拜シ、戰若シ利アラズバ、生テ還ラジト誓ヒ、乃チ旗黨一百四十三人ノ姓名ヲ、如意輪堂ノ壁板ニ書シテ其後ニ、

かへらトとゐねて思へば梓ゆこ

なきかきよ入る名をうとむる

ト、一首ノ歌ヲ添ヘ記シ、各、髮ヲ截リテ、佛殿ニ納メ、即日吉野ヲ發シテ敵陣ヘ向ヒタリ。

明年正月、高師直ト大ニ四條驛ニ戰ヒ、纒ニ三千ノ寡兵ヲ以テ、賊ノ六萬ニ當リ、迫リテ其陣ヲ衝キ、殆ド師直ヲ得ントス。此日巳ヨリ申ニ及ブマデ、戰ヒ凡ソ三十餘合、賊數百千人ヲ殺傷シ、我兵モ亦死亡略盡キタリ。乃チ餘兵五十餘人ト府ヲ負ヒ、佯リ走リテ師直ヲ誘フ。師直覺リ、兵三百ヲ

分チ遣テ之ヲ追フ。正行返戦シ、五十餘級ヲ斬リ、尚前デ復タ師直ニ迫ル。而シテ正行正時、身ニ中ルノ箭蠟毛ノ如ク、兵皆重創ヲ被リテ用フベカラズ、正行乃チ呼ビテ曰ク、事畢レリ、賊ニ獲ラル、コト無レト。正時ト交刺シテ斃ル。時二年二十三ナリ。

第五課 扁ノ事

教師、次郎ニ告ゲテ曰ク、文字ヲ知ルニ、先ツ注意スベキコトアリ。余今之ヲ語ラン、汝靜ニ坐シテ能ク之ヲ聞キ、而シテ余ノ問フ所ニ答ヘヨ。

教師 次ニ記セル文字ヲ見ヨ。此等ノ文字中、如何ナル部分ガ同一ナリヤ。

松 杉 梅 櫻 柳 枝 根

次郎 此等ノ文字ハ、皆木ノ字ヲ有セリ。

教師 然リ、木ノ字ハ、何レノ方ニアルヤ。

次郎 木ノ字ハ、左ノ方ニアリ。

教師 然リ、斯ノ如キ組立ノ文字ニテ、左ノ方ニアル部分ヲ、總テ扁ト名ツク。故ニ此等ノ文字ハ、皆木扁ナリ。次ニ記スル文字ハ、何扁ナリヤ。



姉 妹 好 妙 娘

次郎 此等ハ、皆左ノ方ニ女字ヲ有セリ。故ニ之ヲ女扁トス。

教師 然リ、猶次ニ記スル文字ヲ見テ、其何扁ナルヲ言ヘ。

鯉 鮒 鯛 鮭 鰻

綿 絹 絲 織 綢

袷 袂 袴 袖 袴

蜂 蟻 蟬 蛙 蠅

教師 右ノ如ク文字ニハ、扁ヲ同ウスルモノ多ク

アリテ、其扁ニ由リテ、文字ノ意味モ、亦略類ヲ同ウスルモノナリ。例ヘバ木扁ノ文字ハ、概子木ノ種類カ、然ラザレバ木ノ事ニ關係スルモノヲ示セリ。魚扁、虫扁等モ、亦皆然リトス。汝此以後文字ヲ讀ムトキハ、能ク之ニ注意セヨ。

第六課 物體ノ三狀

天地間ニ在ル物ハ、其大小形狀千差萬別ナリト雖モ、之ヲ總稱シテ物ト謂ヒ、既ニ物アレバ、必ス其體アラザルナシ。故ニ又之ヲ物體トモ謂フ。例

へバ一個ノ石、一滴ノ水ハ、皆物體ナリ。日モ月モ星モ、吾人ノ棲息スル地球モ、亦各物體ナリ。其他草木、花卉ノ類、禽獸魚蟲ノ類、皆盡ク物體ニアラザルハナシ。加フルニ吾人ノ四周ニ充滿スル空氣ノ如キモ、眼之ヲ見ルコト能ハザレドモ、亦是レ一ノ物體ナリ。乃チ團扇ヲ以テ煽ゲバ物アリテ顔ニ觸ルヲ覺ユ、是レ其證ナリ。又香臭ノ氣ノ如キモ、其質極メテ么微ナレバ、眼之ヲ見ルコト能ハズト雖モ、若シ其體ナケレバ、何ヲ以テ之ヲ嗅グヲ得ンヤ。今天地間ノ萬物ヲ取テ、一々其形

ノ異ナル所ヲ指示ス可カラズト雖モ、物理學ニ於テハ、其類ノ相同キ物ニ因テ、之ヲ三體ニ區別セリ。即チ固體、液體及ビ氣體是ナリ。或ハ又液氣ノ二體ヲ合シテ、流動體ト稱スルコトアリ。諸テ固體トハ、金石ノ如ク、其凝聚ノ力甚ダ強クシテ、固ク一塊ヲナスガ故ニ、之ヲ碎クニ非ザレバ、其形常ニ變ズルコトナク、又其一端ヲ舉グレバ、以テ全體ヲ動カスヲ得ベシ。稍急須ノ柄ヲ持テ、其體ヲ舉グルガ如シ。液體ハ之ニ反シ、水、油等ノ如ク、凝聚ノ力甚ダ弱クシテ、流動シ易ク、且ツ

其一部ヲ舉ゲントスレバ、輒ク離ル、者ナリ。例  
 ヘバ柄杓ヲ取テ水ヲ酌ムガ如シ。或ハ之ヲ他ニ  
 移セバ、其觸ル、所ノ物ニ隨テ、忽チ其形ヲ變ズ。  
 諺ニ云フ所ノ、水ハ方圓ノ器ニ從フトハ、即チ是  
 ナリ。又氣體トハ、空氣、蒸氣ノ類ノ如ク、其質全ク  
 前ノ二體ト異ニシテ、其分子互ニ相反撥スルノ  
 性强キガ故ニ、苟モ空虚ノ場所アレバ、直チニ擴  
 リテ之ヲ充サントス。

熟萬物ノ情態ヲ察スルニ、凡ソ何物ニ限ラズ、皆  
 三體ノ中、孰レカ其一ニ現ハレザルモノナシ、且

ツ其形ヲ變ズルモ、亦此三體ノ外ニ出ヅルコト  
 ナシ。金銀ノ類ハ、其質堅牢ノ固體ナレドモ、烈火  
 ニテ熔セバ液體トナリ、水ハ常ニ液體ナレドモ、  
 溫熱ニ遇ヘバ蒸散シテ氣體ニ變ジ、寒冷ニ遇ヘ  
 バ凍結シテ固體ニ變ズルガ如シ。

第七課 植物ノ話

其一 根

植物ハ、動物ノ如ク移動スル能ハズシテ、一處ニ  
 生長シ、一處ニ定止ス。其能ク斯ノ如クナラシム  
 ルモノハ、即チ根ニ由ル。根ハ則チ下方ニ向テ

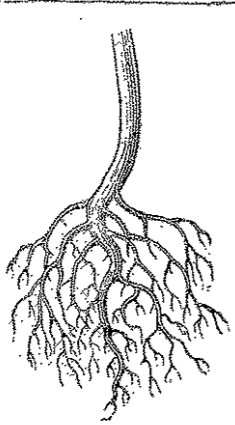


長シ、地ニ入り土ニ錯交附着ス。是ヲ以テ能ク喬木ヲシテ、大風ニ逢フモ顛仆ノ患ナカラシムルナリ。

若シ夫レ蘿蔔ハ、地下ニ一大根ヲ没シテ、其地上ニ見ハル、ノ部ハ少ナク、葉モ亦僅ニ數個ヲ挺出スルノミ。其莖極メテ短キヲ以テ、葉ハ直ニ根ノ上端ヨリ着生スルガ如シ。此ノ如キ大ナル根ト雖モ、仍ホ其周圍ニ毛狀ノ纖小根ヲ附屬スルナリ。

凡ソ樹木ノ如キ大ナル植物ハ勿論、野草ノ如キ

單弱細小ナルモノト雖モ、皆分岐セル根ヲ有ス。即チ地上ノ莖ノ、枝アリテ四方ニ蔓延スルガ如ク、地下ノ巨根モ、尤モ繁密ナル小根ヲ具ヘリ。左ノ圖ニ掲ゲタル莖ノ下ニ連ナル根ヲ見ヨ。恰モ鳥ノ足ノ如クニシテ、物ヲ攫ムノ指ヲ具ヘタルニ似タリ。但鳥趾ハ僅ニ四個ニ過ギザルニ、今根ノ指ハ、其數夥シクシテ算ヘ難キニアラズヤ。此ノ如ク數多ノ小指ヲ有シ、且ツ延長限リモナキ爪ヲ具フル



ヲ見レバ、草木ノ土壤ニ附着シテ、牢固拔ケ難キ  
 モ、固ニ故アルヲ悟ルベシ。況ヤ毛根土砂ニ横入  
 シテ、之ニ包裹セラル、ヲヤ、其益、動カスベカラ  
 ズシテ、大風アリト雖モ、力ヲ施スニ由ナキコト  
 宜ナリトイフベシ。斯ノ如ク草木ヲシテ、土地ニ  
 固定セシムルハ、即チ根ノ職分ナリ。  
 然レドモ根ノ掌ル所ハ、獨リ之ニ止マラズ、更ニ  
 精巧ナル機務ヲ行フコトヲ知ラザル可カラズ。  
 夫レ草木ハ、自ラ養フノ食ヲ大半地ニ仰グモノ  
 ナリ。而シテ何モノカ能ク其給ヲ取り得ル。唯其

レ根獨リ土中ニ在リテ地下ノ水ヲ吸ヒ、併セテ  
 其生々ヲ支フルニ必要ナルモノヲ收メ、之ヲ幹  
 ノ纖維ニ輸送シテ、草木ハ始メテ其生ヲ遂グル  
 ナリ。  
 根ノ其職務ヲ行フニ就テ、尤モ奇異感歎スベキ  
 ハ、根ハ正シク其草木ノ要スル品類ヲ辨知スル  
 ニ似タルノ一事ニ在リ。去レバ甲種ノ草木ノ根  
 ハ、之ヲ養フニノミ適スルモノヲ吸收シ、乙種ノ  
 草木ノ根ハ、亦之ニ適スル滋養物ノミヲ吸入ス。  
 斯ク植物ノ根ハ、各水ノ外、土中ヨリ收入スベキ

モノ、中ニ何ガソレノニ適スルカヲ辨別スルヲ以テ、縦ヒ草木ヲ移スモ、其要スル所ノ食養ヲ得ル能ハザルノ土地ニ植エバ、根ハ之ヨリ物ヲ吸フノ作用ヲ止ムルガ故ニ、其草木ハ漸ク凋衰シ、遂ニ枯死スルニ至ルベシ。

根ノ深ク地中ニ入り、巨岩砂礫ニ周匝セラル、モ、仍ホ能ク蔓延シ、少シモ妨障セラレズシテ、生長スルハ、如何ナル故ゾトイフニ、畢竟小根アリテ、能ク地中ヨリ水ト食養トヲ吸収スルト同時ニ、己レ斷エズ隨意ニ其端ヲ延長シテ生育スル

ヲ以テナリ。

蓋シ稚根固ヨリ繊細ナレバ、如何ナル所ニモ潜入スルコト甚ダ容易ニシテ、且ツ自ラ延長スルニ、敢テ急ヲ要セズ、徐々久シキヲ俟チテ足レルノミナラズ、此尖端ノ如キハ、固ヨリ何レノ方向ニモ能ク伸暢シ得ベントナス。

第八課 名工ノ用意

古ヨリ一事ヲ遂ゲ、一藝ヲ成シテ、大名ヲ世ニ揚グル者ハ、其研精用意モ、亦格別ノ事アリ。

圓山應舉ハ、京都ノ人ニテ、近世ノ有名ノ畫家ナ

リ。或時人ニ臥猪ノ圖ヲ描カンコトヲ乞ハレケルガ、應舉未ダマノアタリ野猪ノ臥シタルヲ見シ事ナシ、如何セント思ヒ居タルニ、折節ハ瀬ヨリ老婆ノ薪ヲ負ヒ、己レノ家ニ來タルアリ、就キテ此事ヲ問フニ、山家ニテハ、稀ニ見ルコトアリト答フ。因テ云フ、汝重子テ之ヲ見バ、直チニ來リ告ゲヨ、必ズ厚ク報ゼント約シ置キシニ、月餘アリテ老婆急ギ來リテ、適、老婆ガ家ノ後ナル竹林中ニ、野猪來リ臥セリト告ゲシカバ、應舉云ク、汝先ヅ歸リ必ズ驚カス勿レトテ、遽ニ門人兩三輩

ヲ從ヘテ、ハ瀬ニ到ルニ、野猪ハ猶臥シ居タリ。應舉直ニ筆ヲ援テ、之ヲ寫シ、厚ク老婆ニ報ヲナシ、家ニ歸リ、更ニ之ヲ清寫シ置ケリ。後鞍馬ヨリ來レル老翁ニ又臥猪ノ事ヲ問フニ、山中往々之ヲ見ルト云ヘバ、乃チ畫ク所ノ圖ヲ出シテ示スニ、翁之ヲ見テ、畫ハ宜シケレドモ、臥猪ニアラズ、是レ病猪ナラシト云フ。應舉驚キ其故ヲ問ヘバ、臥猪ハ安眠ノ中ト雖モ、其態自ラ勢アリ。僕山中ニテ病猪ヲ見シニ、實ニ此畫ノ如シト云フニ、應舉始メテ曉リ、具ニ翁ニ臥猪ノ形容

ヲ叩キ嚮ニ畫キシ所ヲ捨テ、翁ノ詳ニ説ク所ニヨリテ、之ヲ改メ寫セリ。

後ハ瀨ノ老婆ニ逢ヒ、先キニ見タル所ノ野猪ノ事ヲ問ヘバ、婆云ク、惟ムベシ、彼ノ野猪翌朝竹林中ニ死シ居タリト。應舉之ヲ聞キテ彌、老翁ノ言ニ感ジ、再ビ翁ノ來レル時、後ニ圖セシ幅ヲ示シケレバ、是レ真ノ臥猪ナリトテ、手ヲ拍テ驚嘆シタリト云フ。應舉ノ用意洵ニ感ズベシ。凡ソ畫ヲ學ブモノ、寫生セントセバ、精密ニ實物ヲ觀察シ、其真ニ迫ル様ニ描寫スルヲ第一ニ務ムベキナ

リ。

第九課 旁ノ事

余ハ前課ニ於テ、文字ニハ左リニ扁ト云フモノアルコトヲ論セリ。今又右ノ部分ニ就キテ、説キ聞カス可シ。

松、杉、梅、櫻、柳、枝、根等ナル文字ノ、皆木扁ナルコトハ、汝等ノ既ニ知レル所ナレドモ、其右ナル部分ヲ、何ト稱スルヲ知レリヤ。斯ノ如キ形ノ文字ニテ、其右ニアル部分ヲバ、總テ旁ト稱スルナリ。松ト云フ字ハ、旁ハ公ニシテ、梅ト云フ字ハ、旁ハ每



ナリ。而シテ共ニ木扁トス。總テ文字ニハ、扁ヲ同ジクスルモノ多キト一般ニ、旁ヲ同ジクスルモノモ亦少カラズ。

鳴、鶴、鴉、鳩等ハ、扁ハ異ナレドモ、旁ハ皆同ジ。尚次ニ旁ノ同ジキモノ、二三ヲ舉グベシ。

利 別 制 刷 刺 則

功 助 勤 勘 動 勵

雌 雄 雉 雜 離 難

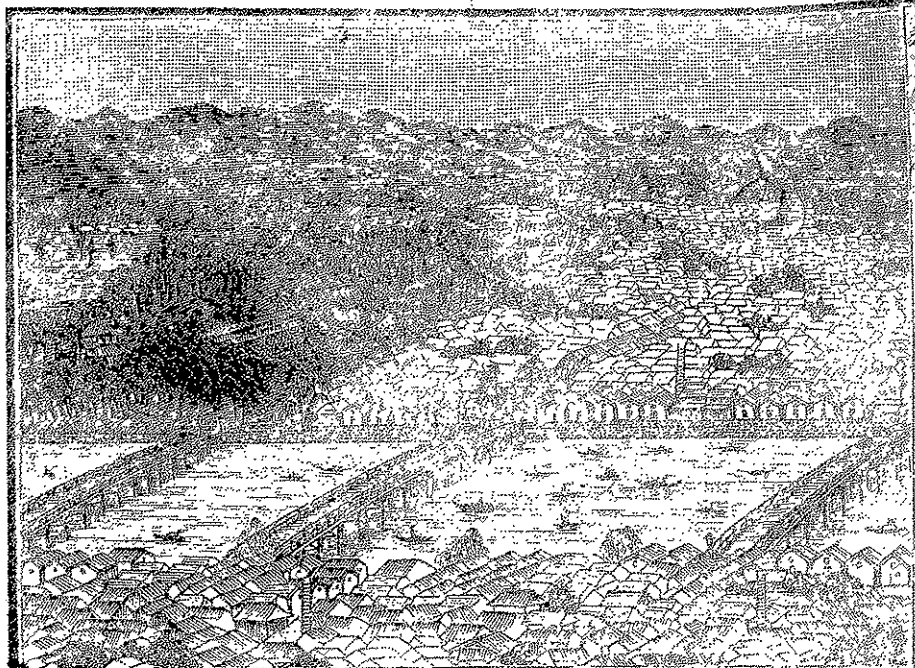
此等ノ類頗ル多シ。凡ソ斯ノ如キ形ノ文字ヲ知ルニハ、汝等先ヅ扁ト旁トニ注意シテ、其ノ字ハ

扁ハ何ニシテ、旁ハ何、其ノ字ハ何扁ニシテ、何旁ナルコトヲ識別シテ、常ニ記憶セヨ。

第十課 大坂

大坂ハ畿内攝津國ニ在リ。東京ヲ距ルコト百四十里餘、大坂府廳ノ在ル處ニシテ、人口凡ソ三十萬、東京ニ亞グ繁華ノ都府ナリ。古ハ浪速ト稱シ、仁德帝ノ舊都ニシテ、今ノ高津宮ハ、即チ帝ヲ祀レルモノナリ。

全都府ヲ別テ東西南北ノ四區トナス。西南ハ茅渚、海ニ臨ミ、東ハ地稍高クシテ、北ハ平坦ナリ。衛



衛清潔ニシテ幅廣ク溝渠四方ニ通ジ運漕ノ便到ラザル所ナク從テ橋梁ノ多キ本邦ニ甲タリ淀川ノ本流ハ府ノ西ヲ流レテ西南海ニ瀉ギ河口ニハ帆檣林立シ船舶ノ出入常ニ甚ダ繁シ又河口ニ小丘アリ天保山ト云フ此ニ燈臺ヲ建設

ス。

此府ハ中國西國等ノ要路ニ當ルヲ以テ百貨輻輳シ豪商富家軒ヲ並ベ商業ノ隆盛ナルコト邦内其右ニ出ヅルモノナシ大坂城ハ東ニアリ在昔豊臣秀吉ノ築キシ著名ノ堅城ニシテ今ハ大坂鎮臺ノ本營ナリ又宏壯ナルハ造幣局ニシテ其他官衙學校神社佛閣ノ壯麗ナルモノ頗ル多シ又京都神戸及ビ堺等ニ達スル鐵道アリ實ニ四通五達ノ地ト謂フベシ。

第十一課 休息及ビ睡眠ノ事

凡テ身ヲ動カシテ、筋肉ヲ活潑ニ使ヘバ、體ノ成長ヲ助クルノミナラズ、又健康ヲ増スモノナリ。然レドモ運動モ多クスレバ、終ニ疲勞ヲ生ズルナリ。此時ニ之ヲ回復スルノ良法ハ、休息ト睡眠トノ二ツアルノミ。休息トハ、身體全ク靜止スレドモ、精神ハ尚知覺アル時ヲ云ヒ、睡眠トハ、身體精神共ニ全ク用ヲ休ム時ヲ云フナリ。休息ハ唯、筋肉ノ疲勞ヲ回復スルノミナラズ、又消化機ノ運用ヲ盛ンニシ、精神ヲ爽快ナラシムルモノナリ。睡眠ハ、身體精神共ニ安穩ヲ得テ、強壯ヲ回復スルノ効多シ。然レドモ食後ニハ、決シテ眠ニ就クベカラズ。何トナレバ、消化機ノ運用ハ、睡眠中大ニ微弱トナルモノナレバナリ。

人其性質ト慣習トニ因リテ、休息睡眠ノ時間ヲ痛ク減ジテ、永ク職業ニ從事スルモノ、身ノ健康ヲ害セザルモノアリ。然レドモ此ノ如キ人ハ、衰老ヲ早く來スカ、又ハ僅ノ疾病ニモ、俄カニ死ヲ致スコト往々コレアリ。之ニ反シテ、或人ハ常ニ懶惰ニ習ヒテ、過多ノ時間ヲ、休息ト睡眠トニ費スモノアリ。此ノ如キ人ハ、筋肉衰耗シテ、活力漸ク

竭キ、精神常ニ憊々トシテ事物ヲ辨識スルコト  
 ナク、學問ヲ研究スルノ力ナドハ、絶テナキニ至  
 ルナリ。夫レ此種ノ人ノ如キハ、生涯ノ中他人ヨ  
 リ三倍ノ損ヲ被ムルモノト爲スベシ。第一ニハ、  
 休息睡眠ノ爲メニ過多ノ時間ヲ失ヒ、第二ニハ、  
 職業ヲ務ムベキ手間ヲ減少シ、第三ニハ、此惡習  
 ヨリ來ス害ノ爲メニ生命ヲ短クスルナリ。  
 此兩人ノ如キ慣習ハ、共ニ中正ヲ得タリト云フ  
 可ラズ。皆弊害ノ甚シキモノナレバ、努メテ之ヲ  
 改メズンバ有ルベカラズ。睡眠ハ七時間若クハ、

八時間ニ亘ルヲ適度トス。故ニ此適度ノ睡眠ヲ  
 ナシタル時ハ、速ニ臥床ヨリ起キ出テ、各自其業  
 務ニ就クベシ。果シテ此ノ如クナラバ、身體ノ健  
 康ヲ保チ、幸福ヲ享ケ、天然ノ壽ヲ全クスルコト  
 疑ナシ。

第十二課 貨幣ノ通用

古昔草昧ノ世ニ在テハ、通貨ヲ用ヒズ、物ト物ト  
 相易ヘタルモノナリ。蓋シ織工、布帛ニ餘アリテ  
 食物足ラザレバ、其餘ヲ以テ米麥ニ易ヘント欲  
 シ、農家ニ至ランニ、農家之ヲ要セズ、要スル所ハ

犁ナリト曰ハ、織工ハ之ヲ要スル治工ヲ求メ、  
先ヅ之ト交易シ、次ニ其犁ヲ以テ、農夫ト易ヘザ  
ルベカラズ。然レドモ不幸ニシテ、治工ヲ求メ得  
ザルトキハ、更ニ去テ他ノ農夫ヲ尋子ザルベカ  
ラズ。此ノ如クナレバ、織工ハ未ダ農夫ヲ尋子出  
サバルニ、身ハ先ヅ餓死センモ知ルベカラズ。偶  
之ヲ要スル農夫アルモ、有スル所ノ米麥少ナク  
シテ、布帛ノ價ニ當ツルニ足ラザルコトアリ。此  
ノ如キ不便ハ、獨リ織工ト農夫トノ間ノミナラ  
ズ、凡百ノ事皆然リ。故ニ物ト物トノ交易ハ、開明

ノ世ニ行フ能ハズ。是ニ於テカ貨幣ノ通用アリ、  
以テ交易ノ媒トナル。

凡ソ物長短ヲ度ルニ尺度ヲ以テシ、輕重ヲ量ル  
ニ權衡ヲ以テシ、時期ヲ度ルニ年月時日ヲ以テ  
ス。彼是相對比セントスルトキハ、必ズ之ガ標準  
ナカルベカラズ。貨物ノ賣買交易ノ如キモ、彼是  
價格ノ對照第一ニ來ルモノナレバ、其多寡高下  
ヲ測ル尺度ノ必要ナルハ、貨幣ノ媒ノ必要ナル  
ニ讓ラズ。而シテ此尺度トナルモノモ亦貨幣ナ  
リ。故ニ買フ者モ、賣ル者モ、其價ヲ何圓何錢ト稱



シ、財産ノ額ヲ語ルモ、貨幣ヲ以テセリ。  
然ラバ貨幣ハ、交易ノ媒ニシテ、兼子テ物價ヲ測  
ルノ尺度ナルハ明ナリ。今貨幣トスルニ、何等ノ  
物ヲ用フルヤ、之ヲ考フルニ天下普ク用フルハ、  
金銀ナリ。別ニ紙幣ヲ用フレドモ、紙幣ハ金銀貨  
ノ代券ノミニシテ、真ノ貨幣ト稱スベキモノニ  
非ズ。斯ク天下同ク金銀ヲ用フルハ其故如何ヲ  
察セザルベカラズ。凡ソ貨幣トシテ用フベキハ、  
容積細小ニシテ、價格貴キ物タルベシ。否ラザレ  
バ運搬携帶ノ不便アリ、又價格ノ昇降最モ少ナ

キモノヲ選バザルベカラズ。是貨幣ハ物價ノ尺  
度トナルモノニシテ、其價格朝暮ニ變ズレバ、他  
物ノ價格ヲ度ルノ尺度トシ難ケレバナリ。又其  
質ハ、人ノ普ク欲スルモノタルベシ。若シ否ラザ  
ルトキハ、交易媒介ノ用ヲ爲サレバナリ。今凡  
百ノ物ヲ見ルニ、是等ノ事ヲ備具スルコト、一モ  
金銀ニ若クモノナシ、是レ金銀ノ貨幣トシテ普  
ク用ヒラル、所以ナリ。

第十三課 冠及ビ沓

文字ニ扁ト旁トヲ有セルモノアルコトハ、汝等

既ニ能ク悟レル所ナラン。今又文字ニ冠ト脊トアルコトニ就キテ論スベシ。次ニ掲ゲタル文字ヲ見ヨ。

竿 筆 笛 筍 答 筭

此等ハ皆扁モナク又旁モナク、反テ上下ノ二部ヨリ成レリ。總テ此ノ如キ文字ノ上部ヲ冠ト云フ。看ヨ、前ノ文字ハ、其冠皆同一ニシテ、之ヲ竹冠ト稱ス。竹冠ニ干ヲ書スルトキハ、竿トナリ、聿ヲ添フルトキハ、筆トナルナリ。尚次ニ同一ナル冠ヲ有セル文字ノ例ヲ舉グベシ。

字 宅 家 客 室 安 寒

花 草 苔 苗 著 茂 芳

雲 霞 霜 雪 露 霧 雷

究 窮 空 突 窻 窺 穿

字宅等ノ冠ヲ字冠ト稱シ、花草等ハ艸冠、雲霞等ハ雨冠ニシテ、究空等ハ穴冠ナリ。

脊トハ志字ノ心、盆字ノ皿、烈ノ心ノ類ヲ云ヒ、皆文字ノ下部ニ在ルモノナリ。是ノ同一ノ脊ヲ有セル文字、亦冠ト比シク數多アリ。帝、席、帶、幣、布、巾、ノ巾ニ於ケル、古、各、名、吞、否、啓、ノ口ニ於ケル、蓋、盛、

盡、盤、盟、盜ノ四ニ於ケル、志、恚、怒、愚、惑、感、怒ノ心ニ於ケルガ如シ。

汝等既ニ文字ニ爲、旁、冠、脊アルコトヲ知レリ、書ヲ讀ムトキハ、常ニ此等ニ注意シ、又文字ヲ指シ語ルトキハ、其ノ字ハ何屬ナルコトヲ別チ、其ノ字ハ何冠ニシテ、何脊ナルコトヲ辨ズベシ。

#### 第十四課 身體ノ機關

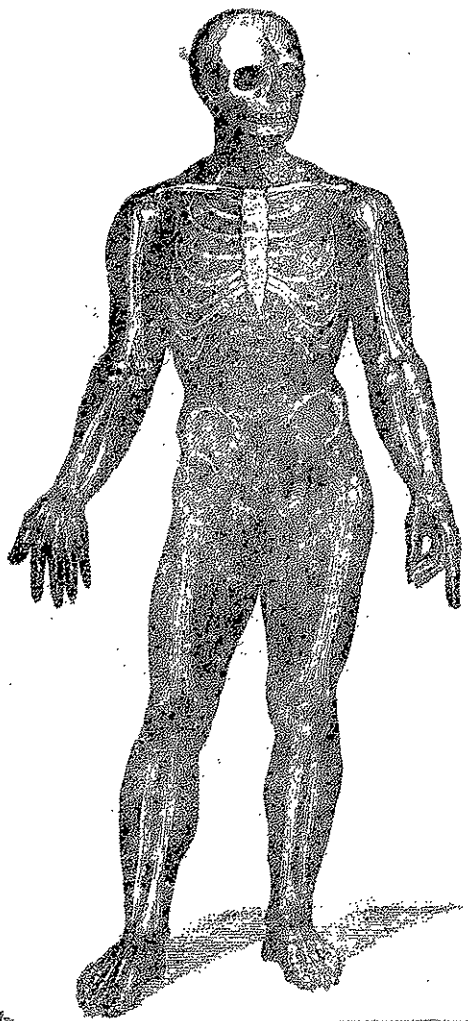
##### 其一 骨骼

獨立ノ氣象、活潑ノ精神ハ、事ヲ成スノ基本ナリ。此氣象ト此精神トナケレバ、智アルモ用ヲナサ

ズ、才アルモ稱スルニ足ラズ。蓋シ此氣象ト精神トハ、健康ナル身體ヨリ出ヅルモノナレバ、人皆健康ナランヲ要スベシ。健康ナランヲ要セバ、須ラク養生法ヲ知ルベシ。養生ヲ知ラント欲セバ、先ツ身體ノ構造ト功用トヲ知ラザル可カラズ。人ノ身體ハ、骨骼ニヨリテ立ち、骨骼ニヨリテ動くモノナリ。骨骼ハ、大小長短ノ骨二百餘枚ヨリ成ルモノニシテ、三大腔アリ。第一腔ヲ頭殼ト云ヒ、第二腔ヲ胸廓ト云ヒ、第三腔ヲ骨盤ト云フ。背部ニ脊椎ト名クル二十六枚ノ小骨アリ、相連リ

テ三腔ヲ接シ、以テ身幹ヲ爲ス。身幹ノ上下二四肢アリ、上ノ兩肢ヲ手ト曰ヒ、下ノ兩肢ヲ足ト曰フ。三腔ノ用ハ、各種ノ機器ヲ藏メテ之ヲ保護ス

骨體



ルニアリ。故ニ頭殼ハ、大腦小腦ト、耳目ノ機

臟、肺臟及ビ大血管ヲ藏メ、骨盤ハ、肝臟、胃腑、及ビ大小腸ノ機器ヲ藏ム。又彼ノ脊椎ト名クル背部ノ長骨中ニハ、一條ノ孔道アリ、中ニ脊髓ト稱セ

ル微妙ノ機體アリ。凡ソ骨ハ、土質ト膠質トヨリ成リ、土質ハ硬ク、膠質ハ柔カニシテ強シ。二質ノ分量各適度ヲ得テ、骨ヲシテ強固ナラシム。幼年ノ時ハ、膠質ノ分量多クシテ骨撓ミ易ケレバ、起坐歩行ノ際、其體常ニ正直ナランヲ要スベシ。俯屈ノ體習慣トナルトキハ、爲メニ體格曲斜トナリ、胸腔ヲ壓シテ、肺

心胃ノ作用ヲ害シ、疾病ヲ醸スコトアリ。

第十五課 惠王ノ慚徳

昔支那戰國ノ代、齊ニ威王ト云ヒシ君アリ。嘗テ好ミテ修メンガ爲メニ、隣國ナル魏ノ惠王ト會合セシニ、惠王ハ威王ニ向ヒテ、齊國ニ寶アリヤト問ヒケレバ、齊王ハ別ニコレナシト答フ。惠王取敢ヘズ、寡人ノ國小ナリト雖モ、猶徑寸ノ珠十枚アリテ、其光各、車十二乘ノ前後ヲ照ラスニ足ルト言ヒテ甚ダ誇レリ。

齊王笑ヲ含ミテ、サレバ寡人ノ寶トスルモノハ、

王トハ甚ダ異レリ。其ガ臣ニ檀子トイフモノアリ、國ノ南部ヲ守ラシメシニ、楚人憚カリテ其境ナル泗水ノ上リニ寇セズ、餘ノ十二ノ諸侯マデ來リ朝セリ。盼子トイフモノアリ、高唐ヲ守ラシメシニ、趙人恐レテ吾ガ東境ニ近ヅカズ。黔夫ト云フモノアリ、徐州ヲ守ラシメシニ、燕人畏レテ、鬼神ニ無異ナランコトヲ祈ルニ至レリ。其外種首トイフモノニ、盜賊ノ備ヲナサシメシニ、道ニ遺タルヲ拾フモノナキニ至レリ。此四臣ノ光ハ、千里ヲモ照ラシツベシ、豈ニ特ニ十二乘ノミナ



ランヤト答ヘケレバ、惠王ハ大ニ慚チ入リケルトゾ。

人ハ身ニ襜褕ヲ纏フヲ耻トセズ、心ニ錦繡ヲ衣ルコトヲ希フベシ。金銀珠玉ハ、畢竟無益ノ飾ニ過ギズ、只心ノ智徳コソ真ノ寶ナレ。其光ヲシテ、四方ニ照スニ至ランメンコトヲ勉ムベシ。

### 第十六課 駝鳥

駝鳥ハ、世界最大ノ鳥ニシテ、身ノ高サ七尺ニ達ス。其翼ハ小ニシテ、以テ飛ビ翔ルニ適セズト雖モ、脚ハ却テ長大健捷ニシテ、力甚ダ強キガ故ニ、

疾走スルトキハ、極メテ駿足ナル馬モ、能ク及ブコトナシ。

駝鳥ハ、熱帯諸國ノ大砂漠中ニ野棲ス。他ノ鳥類ノ如ク、絶エテ巢ヲ造ルコトナク、穴ヲ砂中ニ穿チ、此中ニ其孵化セント欲スル所ノ卵ヲ置ク。而シテ其周圍ニ、往々數多ノ卵ヲ觀ルコトアルモ、駝鳥ハ、曾テ之ヲ顧ルコトナキニ似タリ。

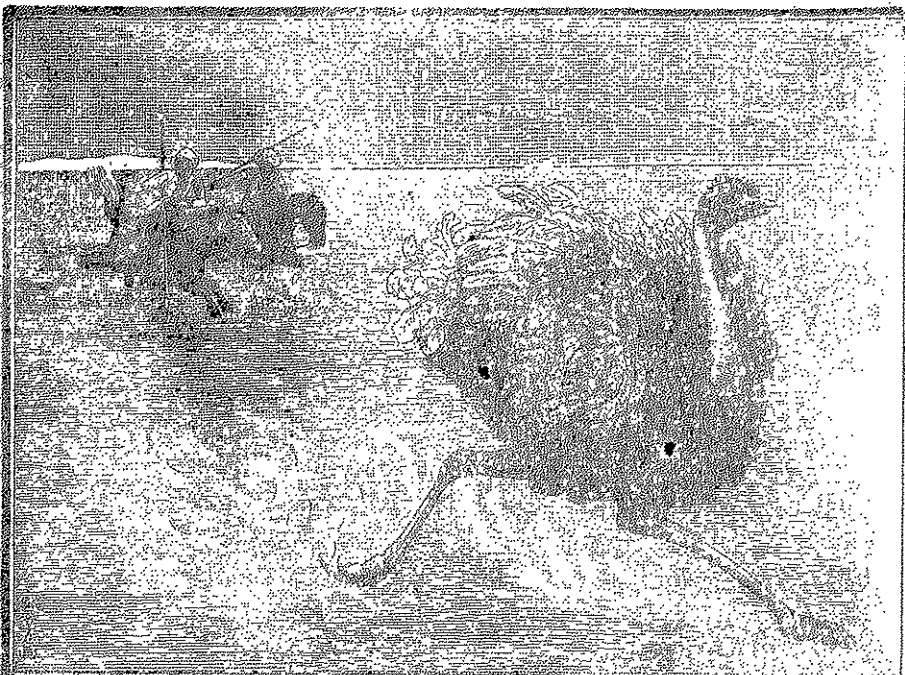
是ノ如ク、駝鳥ノ其卵ノ幾分ヲ放棄シテ顧ルコトナキハ、吾人其何故ナルヲ知ル能ハズト雖モ、母鳥ノ爾カスルハ、必ズ其故アルコトヲラン。火

傘天ニ張り、燄熱盛ナルニ當テハ、卵ハ唯其砂ヲ以テ蔽ヒ、母鳥ハ其處ヲ離レテ他ニ赴クコトアリ。是自カラ卵ヲ抱カザルモ、其熱度ノ不足スル所ナキヲ知レバナリ。

駝鳥ハ、既ニ此ノ如ク大ナルヲ以テ、其卵モ亦大ニシテ、尋常ノ鷄卵ニ比スレバ、其二十個ヲ合シタルニ同シ。從テ其殻モ厚クシテ、堅キコト陶器ノ如クナルハ、當ニ然ルベキ所ニシテ、敢テ驚異スベキニ非ズ。故ニ一卵能ク一家ノ飼養ト爲スニ足ルト云フ。

駝鳥ノ翼及ビ尾ニハ、甚ダ美麗ナル羽毛アリ。世人甚ダ貴重シテ、之ヲ裝飾ニ用フ。因テ獵夫ハ駝鳥ヲ獲ルコトヲ喜ベリ。

然レドモ駝鳥ハ、走ルコト甚ダ迅疾ナルガ故ニ、馬ニ騎リテ之ヲ追フモ、其逃ル、ニ急ニシテ、疾走度ニ過ギ、疲困シテ自ラ休息スルヲ待ツマデ、二三日ヲ經ルニ非ザレバ、之ヲ獲ル能ハズ。然ラザレバ終ニ能ク之ニ及ブコトナカルベシ。駝鳥ハ、其泉流池沼等ニ赴キ、水ヲ飲ミタルノ後ニ、往々捕ヘラル、コトアリ。其故ハ、駝鳥ハ本ト



能ク渴ヲ忍ブモノト雖  
モ一旦水ヲ得ルニ至テ  
ハ自ラ過飲シテ胸腹ニ  
充満スルヲ忘レ疾ク走  
ルコト能ハザレバナリ  
又獵夫ハ巧ニ駝鳥ノ  
皮ヲ被リ其群ニ近ヅキ  
駝鳥ノ未ダ其擬裝タル  
ヲ覺ラザルニ先チテ能  
ク其一ヲ殺獲スルコト

アリ。

駝鳥ハ幼時ニ之ヲ捕テルトキハ長ズルニ隨テ  
善ク人ニ馴ル、モノニシテ間、兒童ヲシテ其頸  
ヲ捉テ背ニ騎ラシメ、馬ノ如ク走ルコトアリ。  
鳥類中砂石ヲ嚙ミ下スモノ頗ル多シ。是其胃中  
ニ入りテ食物ト相摩擦シ、之ヲ粉碎シテ消化ヲ  
助クルニ因ルナルベシ。

乃チ駝鳥モ亦瓦石、木片、釘、小刀等ノ物ヲ善ク嚙  
ミ、嘗テ彈丸ヲ鑄ルニ際シ、其未ダ冷却セズシテ、  
猶甚ダ熱セルモノ數顆ヲ吞ミ下シテ、常ノ如ク

ナリシコトアリト云フ。

第十七課 文字ノ構造

汝等既ニ字形ニ關シテ、幾多ノ事ヲ學ビ知レリ。然レドモ猶其學ブベキコト多シ。汝等ハ讀書ノ間、時々遠、近、道、途、進、退、遲、速、等ノ文字ヲ見ルコト有ルベシ。此等ノ文字ノ是ヲ何ト稱スルカヲ知レリヤ。此ハ俗ニ進入ト稱スルモノナリ。即チ衰ニ進入ヲ書スレバ遠トナリ、束ニ進入ヲ添フレバ速トナルナリ。

又間、關、閨、開、開、關、等ノ門ヲ門構ト云ヒ、國、固、因、圓、

園、圖、等ノ口ヲ國構ト云フ。病なれト云フハ、疾、病、痕、痛、痒、等ノ疒ニシテ、麻なれトハ、麻、底、府、廣、庫、庭、等ノ广ナリ。扇、房、扉、扁、等ハ、戸ヨリ成リ、尾、尺、局、屈、居、等ハ、尸ニ合セテ作レリ。行字ノ腹ニ文字ヲ攙入シテ作レルモノアリ、即チ衡、術、街、行、衙、等ノ如シ。又戈ヨリ成レルモノアリ、成、我、或、載、戴、等ノ如シ。

總テ此等ハ、字形ノ變化ノ最モ普通ニシテ、最モ著ルキモノナリ。其詳ナルコトハ、千萬モ多キ文字ナレバ、悉ク茲ニ舉グルニ暇アラズ。汝等讀書

ノ際、能ク文字ノ構造ニ注意シ、字書ヲ檢閲シテ、其理由ヲ悟ルベシ。

第十八課 水氣ノ凝縮

雨露霜雪、狀ハ異ナレドモ、其實伴シク水氣ノ凝縮セルモノナリ。空中ノ水氣、晝間ハ太陽ノ熱ニ暖メラレ、散解シテ其狀ヲ現ハサバ、レドモ、夜間冷氣ニ達ヘバ、忽チ聚結シテ水ニ還リ、木葉ニ滴ル之ヲ露ト云フ。蓋シ露ハ、雨ノ如ク天ヨリ降ルモノニ非ズ、本、空氣中ニ含ムノ水氣、夜間ニ至リ、萬物ノ熱ヲ散ジテ冷了スル體ニ觸レ、爲メニ寒

冷ヲ引キ、凝リテ滴ルヲ致スノミ。俗ニ壁汗スト云ヘルモ、壁モト汗スルノ理ナシ、亦只氣中水氣ノ凝リタルニ過ギズ。故ニ滿天雲封ズルノ時ニハ、地球ハ正シク夜ヲ着タル如ク、溫熱ノ發散ヲ防グガ故ニ、露ノ降ルコト少シ。又風夜ニ露ノ降ルコトナキモ、是空氣ノ之ガ爲メニ吹拂ハレテ、長ク一處ニ留マル能ハズ、從テ其水氣ノ物ニ觸レテ、凝リ結ブ暇ナキニ由レリ。露ハ能ク萬物ヲ滋潤シ、草木ヲ長養スルモノナリ。亞非利加洲内ノ埃及國ハ、四季雨降ラザレドモ、露多キヲ以テ、

草木繁殖シ、綿花最モ長育セリ。是レ綿ハ降雨ヲ嫌テ水分ヲ好ムモノナレバ、此地ニ適セル固ニ宜ナリ。

夜ノ寒氣甚シク、寒暖計零度以下ニ降ルトキハ、水氣凝リテ露トナラズ、白キ霜ヲ結ブニ至ル。是レ水分子ノ結晶凍凝シテ成リタル者ナリ。樹木ノ霜枯ヲ防グニハ、藁ヲ覆ヒ木ヲシテ温熱ヲ吐カシメザルヤウニス。西洋ノ葡萄畑ニハ、夜中火ヲ焚キ、其煙ヲ畑ニ覆ハセテ、霜ヲ防グト云フ。是煙ヲ以テ暖ムルニハ非ズ、葡萄畑ニ煙ノ衣服ヲ

着セテ、其温熱ノ發散ヲ防グマデナリ。猶曇夜ニ霜ノ少ナキ理ト一般ノミ。

雲結ビデ雨トナラントスル時、天寒甚シケレバ、此水氣ハ直ニ凍結シテ雪片トナル。雪ヲ形容スルノ詞、様々ニシテ、或ハ柳絮ノ風ニ由テ起ルガ如シト云ヒ、或ハ鷲毛ノ飛ビテ散亂スルニ似タリト云ヒ、又之ヲ花ニ擬シ、之ヲ綿ニ擬ス。其地上ニ積ムヲ見テハ、樹々玉ヲ綴リ、遠路銀ヲ鋪クナド、言ヒ、文人雅客ハ毎ニ賞贊シテ措カズ。

然レドモコハ是レ唯其皎然皚然タルニ就テ、外



觀ヨリ評シタルノミ。若シ夫レ顯微鏡ヲ以テ、仔細ニ視察スルトキハ、其美麗ナルコト、更ニ驚クベキ者アリ。片々皆六瓣ヲ呈シ、其狀一々同ジカラズ、愈變ジテ愈奇ナリ。去レバ古人モ花ヲ五出ト云ヒ、雪ヲ六出ト云ヘリ。

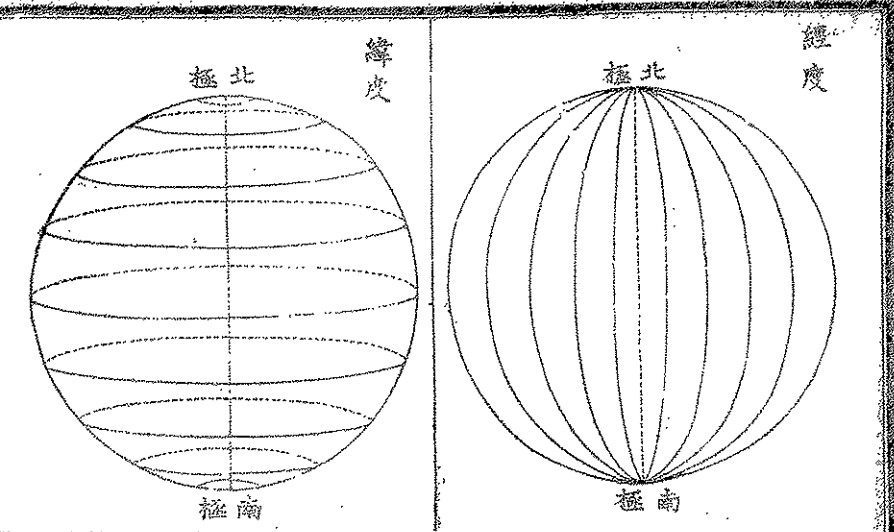
雲凝リテ雨トナラントスルノ際、中途烈寒ニ達ヒテ凍結スル者アリ、之ヲ霰ト云ヒ、霰ノ大ナルヲ雹ト云フ。抑、空氣ハ地面ヲ距ルコト、愈高ク愈遠ケレバ、地面ノ熱ニ感ズルコト、益少キヲ以テ、其溫度モ益減ズ。是レ高山ノ頂ニ、終年積雪ノ融

ケザル所以ナリ。然ルニ霰ノ降ル際ニハ、氣中ノ溫度之ニ反シ、上温ニシテ下冷ナリ。故ニ空氣ニ異常ヲ呈シ、多クハ一時ノ烈風ヲ起スモノナリ。

第十九課 地球ノ經緯度

我地球ハ太陽系中ニ列シ、大空ニ懸リテ、太陽ノ周圍ヲ運行スル球形ノ一塊ナリ、之ヲ宇宙ノ大ヨリ考フレバ、滄溟ノ粟粒ニモ足ラズ。然レドモ思想ヲ地球ニノミ限リテ之ヲ考フレバ、其洪大ナルコト實ニ言フ可ラズ。故ニ其表面ニ列スル各處ノ位置距離ヲ定ムルニ、里ヲ以スルモ及ブ

可ラズ、乃チ之ニ許多ノ縱横線ヲ畫シ、其線ヲ數ヘテ之ヲ計算ス。大陸、島嶼ノ距離ヲ算シ、地形ヲ測リ、若クハ鵬程萬里ノ洋中ニ在テ、洪濤ヲ蹴テ長風ニ駕シ、能ク航路ノ方向ヲ誤ラザル所以ノ者ハ、一ニ此縱横線ノ計算ニ由ラズンバアラズ。然レドモ地球ノ表面實ニ此線アルニ非ズ、假ニ此線ヲ設テ以テ測算ニ便スルノミ。地球ノ中央ニ圍リテ、地球ヲ南北兩半球ニ分ツ大圈ヲ赤道ト曰フ。赤道ト直角ニ交リ、南北極ニ輻輳シ、各地球ヲ一周シテ大圈ヲ爲ス者、之ヲ經



度ト曰ヒ、其地ノ子午線ト名ク、即チ頂點ヲ過ギテ南北ニ走ルノ線タリ。太陽此線ニ中スルヲ、其地ノ正午ト爲ス。横線ハ皆赤道ニ平行シテ圈ヲ爲ス。故ニ兩極ニ近ヅクニ從テ、其圈愈小ナリ。是ヲ緯度ノ小圈若クハ平行線ト曰フ。即チ緯度ヲ算スルノ線タリ。凡ソ數學ノ定則ニ於テハ、圓

周ヲ三百六十度ニ分チ、一度ヲ六十分トシ、一分ヲ六十秒トス。地球ノ經緯度モ亦之ニ同ク、先ツ赤道ノ周圍ヲ三百六十度ニ分チ、每度子午線ヲ畫シテ兩極ニ至ラシム。又赤道ノ南北兩極ニ至ルマデヲ各九十度トシ、亦每度平行線ヲ畫シ、以テ緯度ヲ算フ。之ヲ算スルノ法、緯度ハ赤道ヲ起線トシ、次第ニ兩極ニ數ヘ、九十度ニ至テ止ム。我東京ノ如キハ、北緯三十五度三十五分ニ在リト云ヘルハ、赤道以北此度數ニ位スルヲ以ナリ。經度ハ其起線天然ノ定リナシ、故ニ古來國々其京

城又ハ司天臺ノ子午線ヨリ始メ、東西ニ數ヘテ各百八十度ニ至リタレドモ、現今各國ヲ通ジテ、最モ廣ク行ハル、者ハ英國ダリニチノ子午線ナリ。赤道及ビ子午線ハ、其一度各二十八里餘アリ、故ニ南北ノ距離ヲ知ラント欲セバ、緯度ノ差ニ里數ヲ乘ズベシ。但東西ノ距離ハ、赤道近傍ヲ除クノ外ハ、此法ヲ以テ算スル能ハズ、是經度一度ノ長サハ、赤道ヲ距ルニ從ヒ、愈縮小シ、遂ニ一點ニ歸スレバナリ。

又地球ハ二十四時間ニ一轉シ、西ヨリシテ東ニ

向フ、故ニ日月星辰皆却行シ、一時間ニ經度十五度ヲ過グ。是ヲ以テ經度ノ差ハ時刻ノ差ヲ徵ス可シ。即チ西方ノ地ハ常ニ東方ノ地ヨリ遅ク、其差十五度毎ニ正ニ一時間ナリ。故ニ東京ノ正午ハ西京ノ午前十時四十四分二秒ニシテ、英國倫敦ノ午前三時二十分四十秒ナリ。

第二十課 最美ノ行

波斯國ニ一ノ富人アリ。身老イ業務ノ煩忙ニ堪ヘザルヲ思ヒ、唯躬ヲ朝夕ノ衣食ヲ給スルニ足ルベキ若干ノ金錢ヲ剩シ留ムルノミニテ、餘ノ

財産ハ、盡ク之ヲ其三子ニ領與スルト決心セリ。三子父ノ命ヲ聞キテ、俱ニ大ニ喜ビ、拜謝シテ各領タルベキ財産ハ、之ヲ受用スルニ其道ヲ以テシ、敢テ濫リニ消費スルコトナカルベシト誓約ス。資産ノ分配既ニ終ルニ及ビテ、父再ビ三子ニ告グルニ、左ノ言ヲ以テセリ。曰ク、

予ハ今汝等ニ分チタル財貨ノ中ニ雜ヘザル一個ノ品ヲ有セリ、即チ此ニ手ニ握レル所ノ貴重スベキ金剛石ナリ。此寶玉ハ汝等ノ中最美ノ行アラン者ニ、予褒賞トシテ與フベシ。然

ランニハ、各先ヅ是ヨリ出發シテ、三ヶ月ノ旅行ヲ爲スベシ、期ニ至リ歸リテ、再ビ爰ニ會シ、以テ各爲シタル所ノ美事ヲ語レ。

是ニ於テ三子皆束裝シテ途ニ上リ、各異ナル地方ニ向テ進行シ、羈旅ニ在ルコト三月ノ後、皆歸リ來リ、各其旅行ノ間ニ聞見シタル所ヲ叙ベ、特ニ其行爲ノ狀ヲ舉グ。長子先ヅ父ニ告ゲテ曰ク、大人ヨ、兒ハ旅途ニ在ルノ日、未ダ半面ノ識モアラザル人ニ、偶數多ノ貴重ナル寶玉ヲ托セラレタリキ、其數ハ幾許トモ知レズ、托セシ人

モ曾テ之ヲ檢スルコトナカリシハ、兒ノ親シク知ル所ナリ、乃チ其一ニヲ取ルモ、之ヲ知ルニ由ナカルベシ。故ニ兒ニシテ若シ貪リテ自ラ富マサント欲セバ、之ヲナス容易ナルベク、且ツ發覺ノ懼モナカルベシ。然レドモ兒ハ數ヲ悉シテ之ヲ其主ニ還シ、嘗テ一毫モ取ルコトナシ。是ノ如キハ、之ヲ稱シテ美行ト爲スベカラザルカ。

父之ニ向テ曰ク、

是ノ如キハ、單ニ詐欺ナキノミ、未ダ以テ美ト

爲スニ足ラズ。汝ガ行フ所正シト謂フハ、是レ  
アラシク然レドモ亦當然ノミ。若シ汝ヲシテ此  
行ニ反スルコトヲナサシメンカ、真ニ不正ナ  
リ、竊盜ナリ、汝自ラ深ク愧ヅルナカランヤ。汝  
ガ爲シタル所好シ、然レドモ之ヲ以テ美行ト  
ナス可カラザルナリ。

次ニ仲子進ミ告ゲテ曰ク、

兒馬ニ騎リテ旅行ス。一日小兒ノ湖水ノ濱ニ  
遊戯スルヲ看タリ。行將ニ其所ヲ通過セント  
スルニ當テ、小兒忽チ水中ニ陥リ、殆ド溺レン

トス。兒直ニ馬ヨリ下リ、水中ニ躍リ入り、小兒  
ヲ抱キテ之ヲ陸地ニ救ヒ舉ゲタリ。此事ノ狀  
況ハ、其地ノ村人等モ、現ニ目撃セシ所ナリ。兒  
ガ言ノ虚妄ナラザルヲ證スベシ。是ノ如キハ  
以テ美行ト爲スベカラザルカ。

老人曰ク、

汝ハ汝ノ義務ヲ盡ストイフハ、是レアラシク人  
誰カ手ヲ懐ニシテ、小兒ノ溺死セントスルヲ  
看ルニ忍ビンヤ。故ニ汝ノ行固ヨリ好シト雖  
モ、未ダ之ヲ稱シテ美行トナスベカラザルナ



リ。

最後ニ季子進ミ出デ、告ゲテ曰ク、  
大人ヨ、元來兒ニハ一個ノ仇敵アリ、兒ニ害ヲ  
加ヘ、兒ヲ殺サント謀ルコト一日ニアラズ。此  
行ニ於テ、兒一タ險ヲ過グルニ方リ、路ハ崖岸  
ノ上ニ通ジ、阻絶甚ダ危シ。兒行、其懸崖ニ近ツ  
ク頃ホヒ、一物アルニ逢ヒ、馬驚キテ進マズ。兒  
馬ヨリ下リテ之ヲ案檢スルニ、豈ニ圖ランヤ、  
兒ガ宿仇ナリ。行旅ノ疲レニヤ、熟睡シテ前後  
モ知ラズ。若シ夢中少シニテモ、輾轉スルコト

アラバ、忽チ千仞ノ溪中ニ跌落シ、岩ニ觸レ、  
粉齏トナリテ、骸モ留メザルベシ。其生死全ク  
兒ガ手ニ在リ。兒惻然思ハズ之ヲ擁シテ平處  
ニ移シ、而ル後靜ニ攪起シテ、之ニ行キ去ルベ  
シト教ヘタリ。

老人之ヲ聞キテ喜色眉宇ニアラハレ、呼デ曰ク、  
愛兒ヨ、金剛石ハ汝ガ物ナリ。噫、仇敵ヲ必死ノ  
中ヨリ助ケ、怨ニ報ズルニ德ヲ以テス。是レ最  
美ノ行ニ非ズシテ何ゾヤ。洵ニ神明ノ德ニモ  
比スベキナリト。

利用... 一編上... 身... 堂... 齋...

高等  
科用  
普通讀本一編上

明治二十年四月七日版權免許  
同年五月出版  
同年九月九日訂正再版御届  
同二十二年八月二十五日參版御届

定價金十五錢

東京府平民

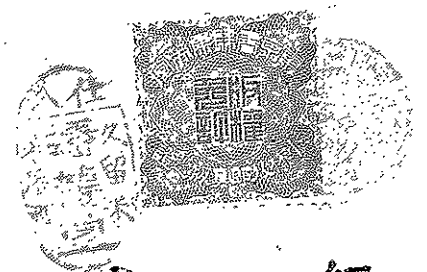
編者 高橋熊太郎

下谷區竹町一番地

東京府平民

出版人 小林八郎

日本橋區通旅籠町十一番地



社會科

明治 20  
39